湿式流水検知装置

XV型
XV-30S型

［検知流量定数50・60］

取 扱 説 明 書

千住スプリンクラー株式会社

T049389

■目　次

本製品をご使用になる前に …… 1
1. 対象製品及び用途 …… 1
2. 本製品の明細 …… 2
3. 本製品の主な名称 …… 2
4. ⚠ 注意事項
　4．1　設置前の注意 …… 3
　4．2　施工上の注意 …… 3～5
　4．3　水張り作業（配管内への注水）及び点検時の注意 …… 5～6
　4．4　維持管理上の注意 …… 6～7
5. 各部の名称とはたらき
　5．1　バルブ本体の各部名称とはたらき …… 7
　5．2　排水弁の各部名称とはたらき …… 8
　5．3　流水検知部の各部名称とはたらき …… 8
6　結線要領
　6．1　流水検知部への結線方法 …… 9
7. 機能説明
　7．1　平常時 …… 10
　7．2　作動状態 …… 10
　7．3　放水停止（復帰） …… 10
　7．4　作動信号の確認方法 …… 11
　7．5　作動信号の停止方法 …… 11
8. 異常時の処置方法 …… 12～14
9. 基本仕様 …… 15

湿式流水検知装置　XV型
取扱説明書

ー本製品をご使用になる前にー

このたびはXV型湿式流水検知装置をご採用いただきまして、まことにありがとうございます。本製品を安全かつ適正にご利用いただくため、据付け前に本書を必ずお読みください。

■この取扱説明書には安全に使用していただくために、次のようなシンボルマークを使用しています。

表　示	表示の意味
⚠警 告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うかまたは、消火機能に重大な悪影響を及ぼす可能性がある場合の注意事項が記されています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うかまたは、消火機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合の注意事項が記されています。

⚠警 告

取付け請負業者様の責務として、この「取扱説明書」または本書のコピーを施主様、及びこの設備の管理者に必ずお渡しください。施主様の責務として、この設備、及び機器が常に適切な状態となるように維持管理してください。火災時には、まず安全な場所に避難してください。消防隊が駆けつけた場合には、必ず消防隊の指示に従って行動してください。

1. 対象製品及び用途

この取扱説明書は下記製品に適用いたします。

製品記号※1	呼び径	分　類	取付方向	検知流量定数	用　途
XV65	65A	作動弁型	縦	50・60併用型	水系消火設備 泡消火設備
XV80	80A				
XV100	100A				
XV125	125A				
XV150	150A				

※1　製品記号の後に『ー30S』が付く製品は、遅延時間が約30秒となります。

2. 本製品の明細

XV型湿式流水検知装置は、次のような構成となっております。附属品等が全部そろっているかご確認ください。

	機 器 名	摘　　要	数 量
本体構成品	バルブ本体	排水弁、流水検知部は組付け済みです。	1台
	排水弁	「DV」、40A（1-1/2″）	組付済
	流水検知部 （端子ボックス）	作動信号用スイッチ※2（2a接点）付	組付済
附属品	アングル弁	10A（3／8″） 圧力計取付け用です。	2個
	ニップル	10A（3／8″） 、L＝150mm	2個
	圧力計	2．5MPa、JIS1．6級、φ75、10A（3／8″）	2個
	取扱説明板	バルブ本体近くの壁等の見やすい場所に取付けてください。	1枚
	常時開プレート	制御弁に取付けてください。	1枚
	常時閉プレート	排水弁に取付けてください。	1枚
	ケーブルバンド	プレート取付け用です。	3個
	六角レンチ	65～100A：呼び6、125～150A：呼び8 カバーの六角ナットを取外す際、六角穴付止めネジも緩むような場合に、押さえ用として使用してください。	1個

一次側の制御弁（バタフライ弁）等は別途ご用意してください。

※2　作動信号用スイッチとはステム、リーフレバー、タイマー部、スイッチ部のユニットのことです。

3. 本製品の主な名称

本製品の寸法は、別途製品仕様図にてご確認ください。本製品の名称は次のようになっております。本製品のご理解、ならびにお問い合わせの際にご利用ください。本製品の構成部品については7～8ページをご参照ください。

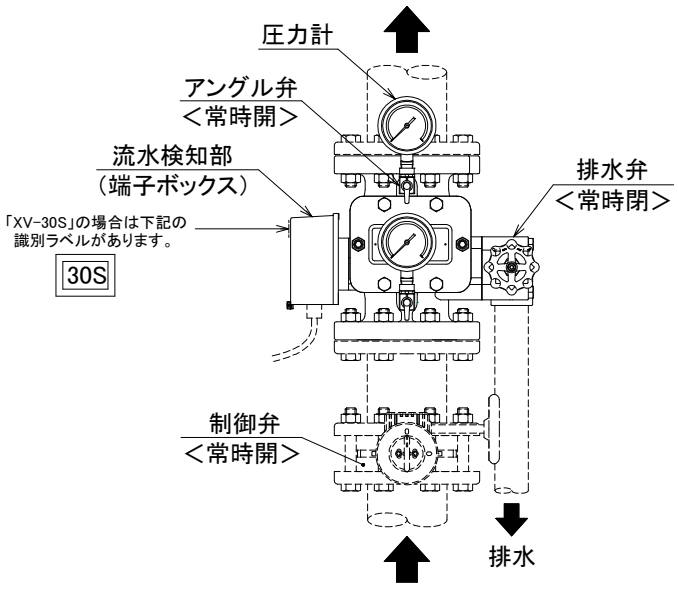


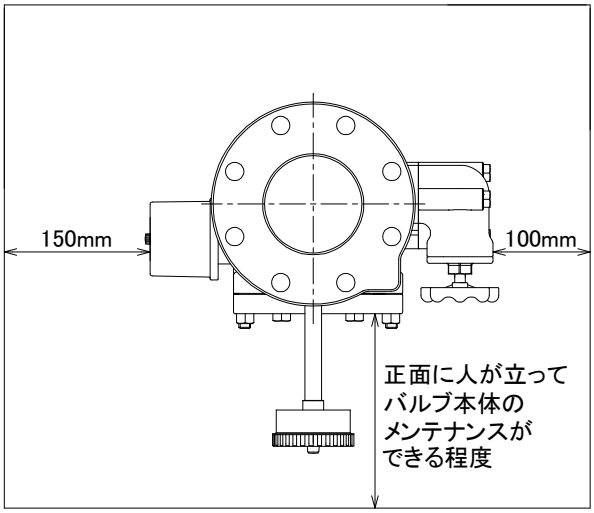
図1

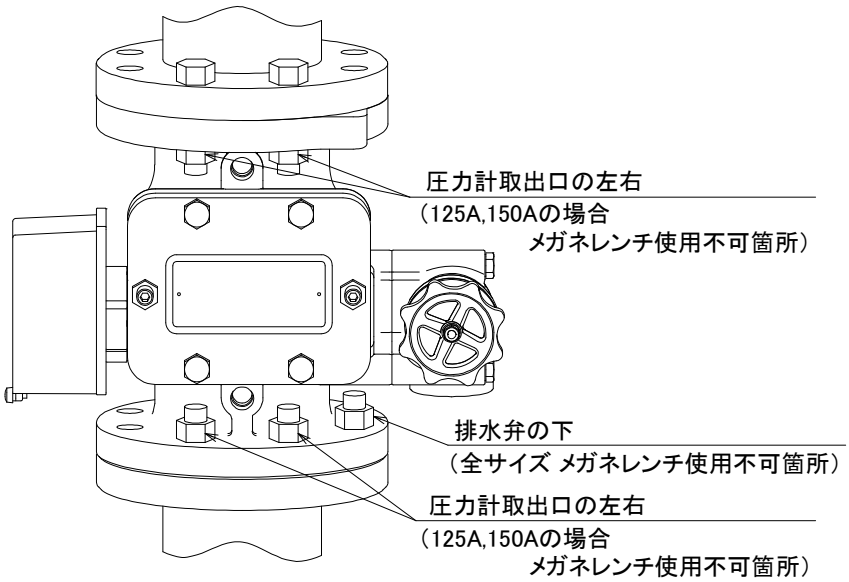
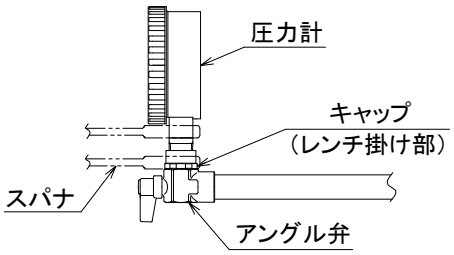
4. ⚠ 注意事項

4．1 設置前の注意

確　認	① 設置及び施工に関しては、消防法施行令、施行規則、及び諸法令に沿って行ってください。 ② 本製品は、日本消防検定協会の検定合格品です。本製品機器の組合せ以外による使用はできません。 ③ 本製品は、縦型取付け専用です。横型には使用できません。 ④ 本製品の不作動水量は20L/min、作動信号の遅延時間は約10（7～16）秒※3です。この不作動水量を超える水等がバルブ本体内を遅延時間通過し続けた場合に作動信号が出ます。加圧送水装置の部分に補助加圧ポンプを設置する際、本製品の不作動水量、及び遅延時間を考慮したうえで設けてください。 ※3 「XV－30S」の場合は、約30（20～40）秒。 ⑤ 規格（流水検知装置の検定細則）において、湿式流水検知装置に対する弁座漏れ試験、及び弁座漏れ量は規定されておりません。
保　管	① 本製品やその附属品は、直射日光が当たる場所、高温・多湿になるような場所、振動の多い場所、腐食性ガスの発生あるいは滞留するような場所に保管しないでください。 ② 本製品には精密加工部品が組み込まれていますので、丁寧に取扱いのうえ、落とした場合などは使用しないでください。 ③ 開梱時、運搬時には組付けの継手部等に無理な力を加えないでください。漏水の原因となります。
設　置 環　境	① 本製品は、水等がかからず粉塵等の発生しない屋内で、腐食性ガスの発生あるいは滞留しない場所に設置してください。 ② 使用温度範囲（0～40℃、ただし水の凍結なきこと）内でご使用ください。
⚠ 警告	**凍結の恐れのない場所に設置してください。管内水の凍結は、機器の破損によるケガや水損事故の発生や、消火機能を失わせてしまう重大な事故原因になります。**

4．2 施工上の注意

取　付	① 取付ける際、本製品の周囲にはメンテナンス性を考慮したスペースを確保してください。流水検知部の側面から150mm以内に配管、及び電線管等を設置しないでください。流水検知部のカバーを開けることができなくなるなど、必要時に本製品の作動信号を停止したり、メンテナンスすることができなくなります。  **図2** ② 本製品を取付ける前に、バルブ本体内部の梱包材を必ず取除き、その他の異物がないことを確認してください。異物等により機能が失われる恐れがあります。

取 付 （続き）	③ 本製品を取付ける際、バルブ本体の側面に表示されている流れ方向（矢印↑）が、下から上方向であることを確認のうえ、設置してください。逆方向では機能しません。 ④ 本製品をフランジに取付ける際、排水弁や流水検知部等に干渉しないよう適切な長さのボルトを使用してください。フランジに直接取付ける際の推奨ボルト長さは65～100AでM16×65、125～150AでM20×75です。また、下図3に示す箇所はスペースが狭く、メガネレンチではボルト・ナットの締付けができませんので、スパナ等を使用してください。  **図3** ⑤ バルブ本体を設備配管に設置してから、圧力計を取付けてください。 ⑥ 附属品の圧力計取出し用のニップル、及びアングル弁をバルブ本体に取付ける際は、シールテープをねじ部に3巻き程度巻き付けてから適切な工具をご使用のうえ、漏れのないように取付けてください。また、過大な力でねじ込まないでください。アングル弁のねじ部等が破損する恐れがあります。 ⑦ 圧力計をアングル弁に取付け、または取外す際は、アングル弁のキャップのレンチ掛け部にスパナを掛け、圧力計のねじ部を締付け、または緩めてください。アングル弁のキャップ装着部が緩み、漏れが生じる恐れがあります。  **図4** ⑧ 制御弁には附属品の「常時開」のプレートを、排水弁には「常時閉」のプレートを掲示してください。
結 線	① 結線時には接続機器の電源を遮断してから行ってください。 ② 端子台への結線、信号停止レバー、及び信号確認レバーの操作時以外、流水検知部のカバーを開けないでください。また、決して流水検知部内部の構成部品を操作・調整しないでください。作動信号用スイッチ部等は工場にて調整・検査済みのため、出荷状態を維持してください。不用意に調整すると、正常に機能しなくなる恐れがあります。 ③ 施工の際、流水検知部のカバーを取外したままにしないでください。内部に水や異物等が入ると正常に機能しなくなる恐れがあります。

結　線 （続き）	④ 作動信号用スイッチは、指定された接点容量以下で使用してください。これを超えた場合、接点が破損し正常に機能しなくなる恐れがあります。

	抵抗負荷
定格負荷	AC250V ／ 4A
	DC30V ／ 4A
最小適用負荷	（例） DC24V ／ 40mA

⑤ 作動信号用スイッチの端子（接点）を複数の機器で共用しないでください。接続機器の故障原因になります。

⑥ 端子への結線要領は9ページをご参照下さい。端子ねじの締付けトルクは約1．0N・mとし、過大な力でねじの締め込みをしないでください。端子台等が破損する恐れがあります。

⑦ 作動信号用スイッチは2a接点仕様です。端子番号①－②、または③－④に結線してください。

⑧ 結線時の配線が、内部部品に負荷を加えないようにしてください。

配　管

① 本製品にはゴム（樹脂）製部品を使用しています。施工の際、悪影響を及ぼすような薬品・溶剤を使用しないでください。正常に機能しなくなる恐れがあります。

② 流水検知部等の構成機器を足場代わりにするのは絶対に避けて下さい。本製品が故障します。

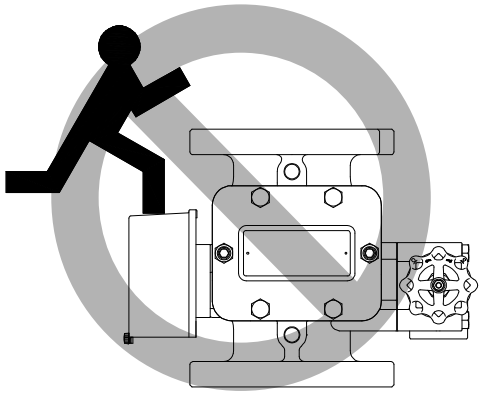


図5

③ 本製品の二次側配管内に空気溜まりが生じないよう、鳥居配管を避けるなどの配管工事を行ってください。二次側配管内の空気量が多い場合には、本製品が正常に作動しない場合があります。

④ 排水弁への排水管の接続は、芯合わせを確実に行い、排水弁に無理な力が加わらないようにしてください。排水弁をバルブ本体へ固定しているボルトに負荷がかかり、漏れの原因となります。

⑤ 施工の際、配管内に異物が入らないように注意してください。配管工事終了後には、貯水槽の清掃、ならびに作動信号を停止する（信号停止レバーを使用する）などの措置のうえフラッシング等を行い、配管内の異物を取除いてください。異物がシート部等に挟まり、正常に機能しなくなる恐れがあります。

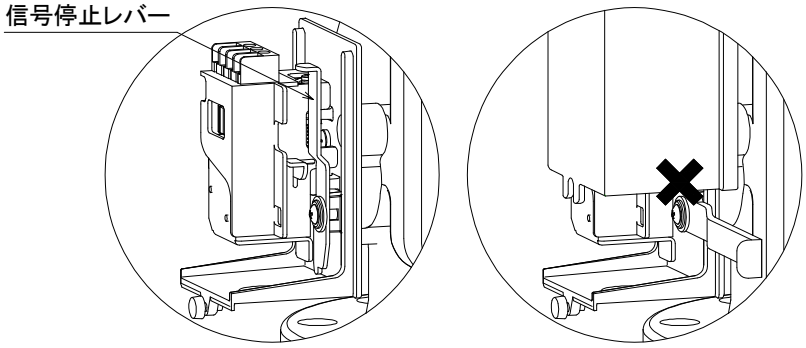
4．3 水張り作業（配管内への注水）及び点検時の注意

水張り

① 配管内の水は、水道水を使用してください。酸、アルカリ、塩分等を含んだ腐食性のある水は絶対に使用しないでください。本製品だけでなく、設備全体に悪影響を及ぼします。

② 排水弁を操作する際、ハンドルを過大な力で締め込まないでください。排水弁のディスクシートが破損し、漏水する恐れがあります。また、排水弁のハンドルをパイプレンチ等で操作しないでください。ハンドルが割れるなどの破損の原因となります。

③ 配管の耐圧検査の際、やむを得ず本製品側から加圧するときは、二次側圧力計取出し口、または排水弁の排水口側を利用してください。

水張り （続き）	④ 本製品の耐圧試験圧力は2．0MPaのため、施工や改修工事で設備の耐圧試験を行う際、これを超えないように注意してください。これを超えた場合には、本製品が破損する恐れがあります。 ⑤ 施工や改修工事で本製品の二次側配管を真空引き等する際、－0．08MPaを超える負圧をかけないでください。これを超えた場合には、本製品が破損する恐れがあります。また、圧力計の元弁（アングル弁）等を閉止してから行ってください。 ⑥ 水張りの際、受信機等に信号を出したくない場合には、信号停止レバーを操作してください。（11ページ図14参照） ⑦ 水張りの際は、排水弁、制御弁、及び圧力計の元弁（アングル弁）を閉じてからポンプを起動してください。その後、制御弁を徐々に開けて注水してください。手順を誤ると思わぬ漏水事故をまねいたり、圧力計等が水撃力で破損する恐れがあります。 ⑧ 水張りの際、二次側配管内に空気溜まりが生じないように、末端試験弁を開けて空気を抜きながら注水してください。 ⑨ 水張り作業後、配管内の圧力が所定の値になっているか、漏れの箇所はないかを確認してください。 ⑩ 水張り作業完了後には必ず「信号停止レバーが定位状態にあること」を確認してください。信号停止レバーを使用した状態では、スプリンクラーヘッドが作動しても本製品の作動信号が出力されません。また、流水検知部のカバーを正しく取付けることができません。  定位状態　　使用（操作）状態 **図6** ⑪ 各部の弁類は開閉表示の通りセットしてあることを確認してください。
動　作 確　認	① 末端試験弁等からの放水により、本製品が作動し、作動信号が出力されることを確認してください。また、末端試験弁等の閉止により、本製品が復帰し、作動信号の出力が停止することを確認してください。 ② 本製品が異常と思われる場合は、12～14ページの「異常時の処置方法」をお読みのうえ、対処をお願いします。

4．4 維持管理上の注意

保　守	① 本製品の保守点検、及び部品の交換等は、設備及び機器について熟知した有資格者、または専門業者が行ってください。 ② メンテナンス、及び部品交換等の際は、不要な警報を出さないための措置を行ってください。 ③ 各部の弁類は開閉表示の通りセットしてあることを常に確認してください。流水検知部内の信号停止レバーが定位状態にあることを常に確認してください。なお、信号停止レバーを使用した状態では、流水検知部のカバーは正しく取付けられません。（上図6参照） ④ 点検時には、本製品を流水により作動させ、作動信号が出力されることを確認してください。

保　守 （続き）	⑤ 点検時には、端子台の結線確認、信号停止レバーの操作以外、決して流水検知部内部の構成部品を操作・調整しないでください。作動信号用スイッチ部等は工場にて調整検査済みのため、出荷状態を維持してください。不用意に調整すると正常に機能しなくなる恐れがあります。 ⑥ 本製品は、必ず使用圧力範囲（0.15～1.4MPa）内で使用してください。過大な圧力が加わった場合、本製品を含めた設備の機器類に変形や破損を生じさせ、重大な機能障害や損壊事故を起こす恐れがあります。 ⑦ 夏場には温度上昇に伴い、配管内圧力が異常上昇することがあります。日常の圧力チェックを行い、二次側圧力が最高使用圧力を超えるような場合には、専門業者にご相談のうえ、排水弁を微開にするなどの圧力を下げるための処置が必要です。流水検知部のダイアフラム、カバーガスケット、排水弁パッキン等を破損させ、漏水や誤作動等の事故を引き起こす恐れがあります。 ⑧ 本製品の使用温度範囲は0℃～40℃（ただし、水の凍結なきこと）としてください。 ⑨ メンテナンス等で部品を再度取付ける際は、必要以上のトルクで締付けないでください。破損の原因になります。 ⑩ 本製品が異常と思われる場合は、12～14ページの「異常時の処置方法」をお読みのうえ、対処をお願いします。 ⑪ 本製品にはゴム（樹脂）部品や電気部品を使用しており、経年により劣化しますので故障する可能性が高くなります。定期的に点検やメンテナンスを行い、適正な維持管理をお願いします。
⚠ 警告	**制御弁は、平常時（警戒時）全開にしてください。閉じてしまうと消火機能が失われます。**

5. 各部の名称とはたらき

本製品の理解、ならびにお問合せの際にご利用ください。

5．1 バルブ本体の各部名称とはたらき

バルブ本体内の水の流れを検知して信号を出すための主要部であり、逆止弁構造とした作動弁型の湿式流水検知装置です。流水が生じたときには、ディスクが開放し、作動信号を出力する状態になります。

No.	名　称	材　質	個数	備　考
1	ボディ	FC250	1	
2	カバー	FC250	1	
3	シートリング	CAC406	1	
4	ディスク	CAC406	1	
5	ロックプレート	C3604	1	
6	ヒンジピン	SUS304	1	
7	ガスケット	ﾉﾝｱｽﾍﾞｽﾄ	1	
8	六角ボルト	SWCH	4	＊1
9	六角穴付止めネジ	SUS304	2	＊2
10	六角ナット	SUS304	2	＊3
11	Oリング	NBR	1	＊4
12	六角ボルト	SUS304	1	M8
13	皿ばね	SUS304	1	呼び8
14	ステム	SUS303	1	
15	ダイアフラム	ｼﾘｺﾝｺﾞﾑ	1	
16	Oリング	NBR	1	G30

呼び径	65A	80A、100A	125A、150A
＊1	M12		M16
＊2	M12		M16
＊3	M12		M16
＊4	G65	G80	G110

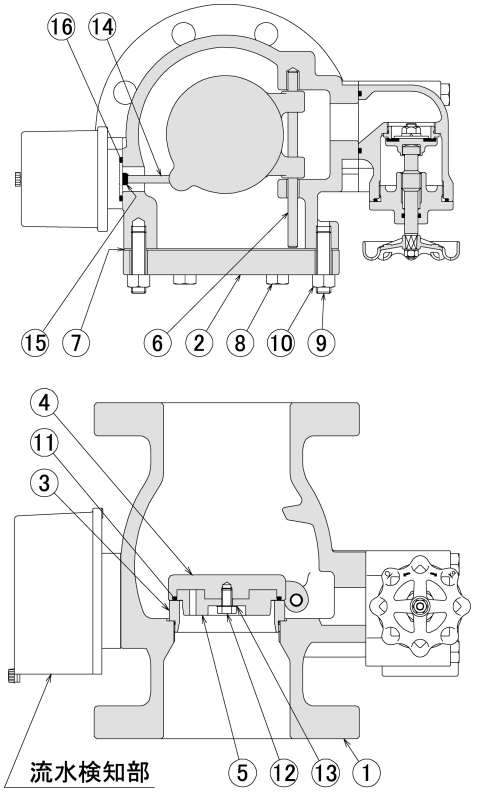


図7

５．２ 排水弁の各部名称とはたらき

本製品の二次側配管内の水を排出するときに操作する弁です。平常時は必ず全閉状態にしておきます。

No.	名 称	材 質	個数	備 考
1	ボディ	FCD450	1	
2	ボンネット	FCD450	1	
3	ハンドル	ADC12	1	
4	シートリング	CAC406	1	
5	スピンドル	C3604	1	
6	六角ナット	SUS304	1	M6
7	ばね座金	SUS304	1	呼び6
8	パッキン	NBR	1	
9	ディスク	耐脱亜鉛黄銅	1	
10	六角ナット	SUS304	1	M8
11	ばね座金	SUS304	1	呼び8
12	ワッシャー	SUS304	1	
13	Oリング	NBR	1	G55
14	Oリング	NBR	1	P11
15	Oリング	NBR	1	G45
16	六角ボルト	SWCH	3	M10

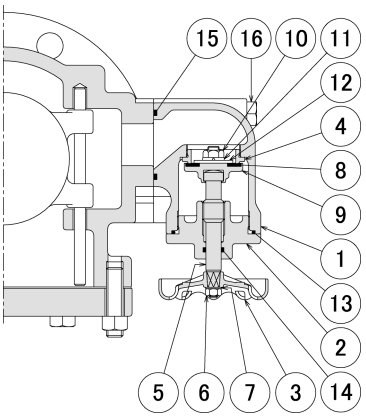


図8

５．３ 流水検知部の各部名称とはたらき

作動信号用スイッチ	ステム、リーフレバー、タイマー部、スイッチ部により構成されており、ディスクの開放動作に連動して、作動信号を出力します。誤報防止のための遅延機能を持たせており、遅延時間は約10秒です。(「XV－30S」の場合は、 約30秒。)
信 号 停 止 レ バ ー	設置後の水張り時やメンテナンス時等において、作動信号を受信機等に出力したくない場合、または本製品が作動中であり、本製品からの作動信号の出力を停止させたい場合に操作します。
信 号 確 認 レ バ ー	結線作業時等において、流水によりディスクを開放させなくても、作動信号を手動で確認する場合に操作します。

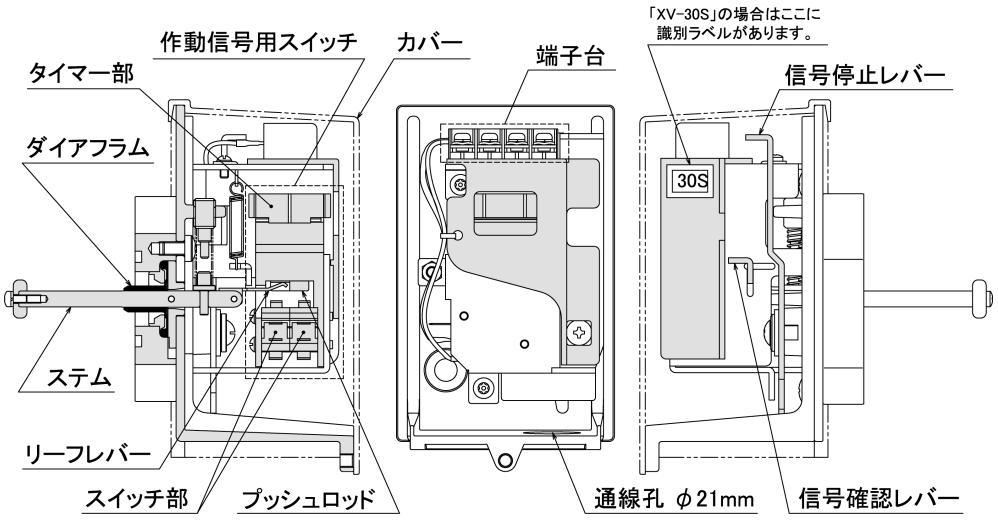


図9

6. 結線要領

6．1 流水検知部への結線方法

流水検知部のカバーは、左側面の下にあるローレットネジ1本により固定されています。このネジを緩め、カバーを持上げて取外してください。ネジは完全に取外す必要はありません。

接点容量は下表のとおりです。この範囲内でご使用ください。2a接点仕様ですので、結線は下図10に示す端子番号①－②、または③－④に接続してください。

端子台への結線確認以外、決して流水検知部内の構成部品を操作・調整しないでください。タイマー部等は工場にて調整検査済みのため、出荷状態を維持してください。不用意に調整すると、正常に機能しなくなる恐れがあります。

なお、結線作業時、バルブ本体を流水により作動させずに作動信号を確認する方法として、信号確認レバーがあります。（11ページ図13参照）

接　　点	2a
端 子 接 続	①－② or ③－④
接 点 容 量	AC250V ／ 4A
	DC30V ／ 4A
最小適用負荷	（例）DC24V ／ 40mA

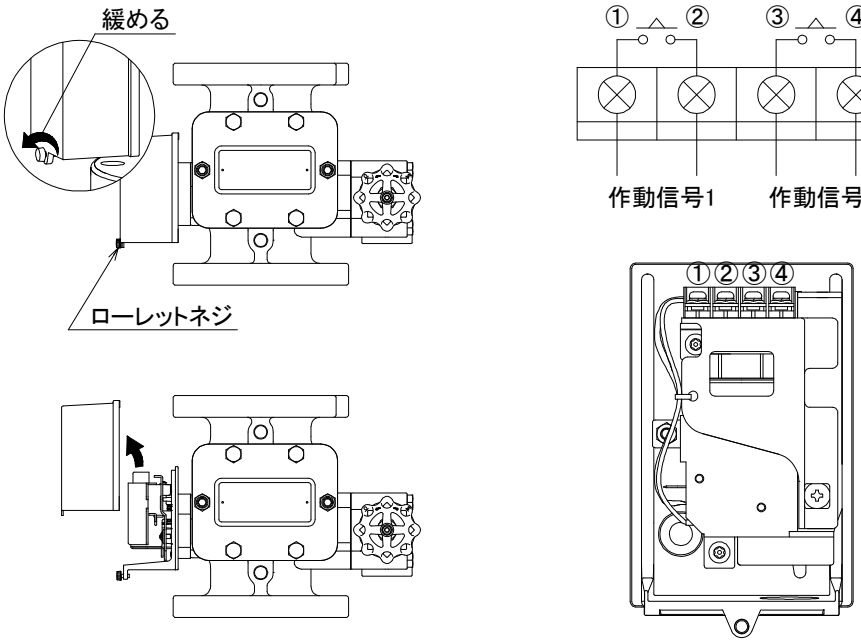


図10

7. 機能説明

7．1　平常時

バルブ本体内のディスクは閉止しており、ディスクの端部がステムの先端を下方に押し付けた状態にあるため、作動信号は出力されません。

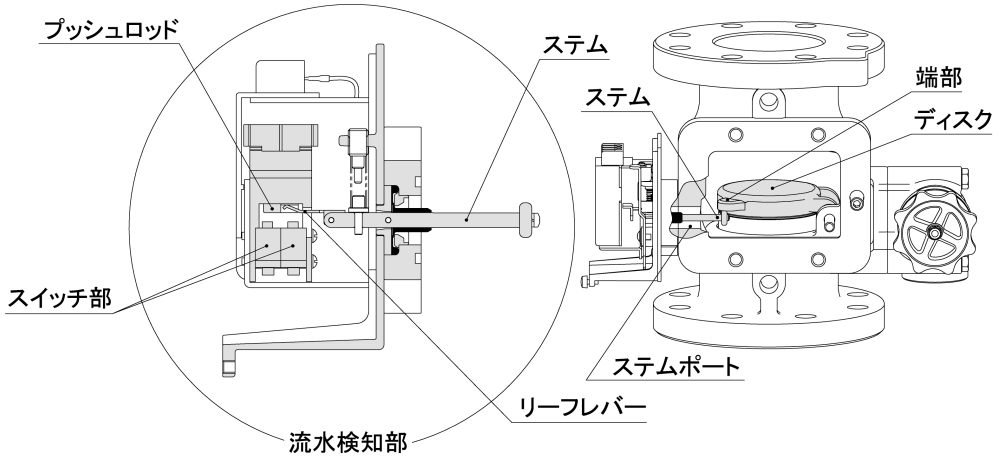


図11

7．2　作動状態

火災時にスプリンクラーヘッドが開放して放水を開始すると、水源側からスプリンクラーヘッド側へ水が流れます。この流水によってバルブ本体内のディスクが持ち上げられ、それまでディスクによって下方に押し付けられていたステムの先端が持ち上がり、作動警報用スイッチのタイマー部を動作させます。

そして、設定された遅延時間を経過した後、タイマー部の部品はスイッチ部を押し込み、接点が閉じ、作動信号を出力します。

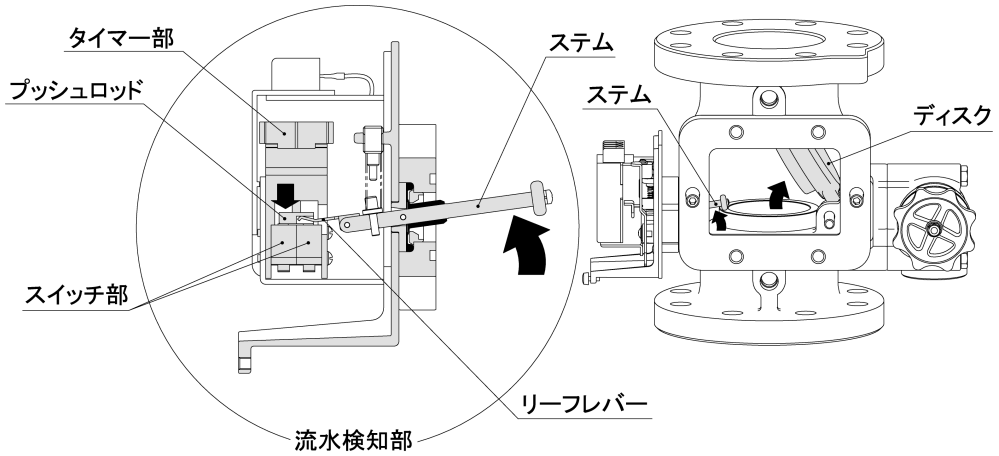


図12

7．3　放水停止（復帰）

本製品の一次側にある制御弁を閉じると、スプリンクラーヘッドからの放水が止まります。放水が止まると本製品を通過する流水もなくなりますので、ディスクは元の位置に戻り、ステムも平常時の状態となるため、作動信号の出力が止まります。

⚠ 注意：　制御弁を閉じて放水を停止する作業は、火災が完全に鎮火したことを確認してから行ってください。

7．4　作動信号の確認方法

流水によりディスクを開放させなくても、手動で作動信号の出力を確認する方法として、信号確認レバーがあります。

下図13に示すように、信号確認レバーを指で押し下げます。信号確認レバーは、信号が出力されるまで（XVは約10秒間、XV-30Sは約30秒間）確実に押し下げ続けてください。途中で戻すと遅延時間がリセットされるため、正常な時間での信号が出力されません。

これらの操作は手動とし、工具等は使用しないでください。部品が破損します。

> ⚠ 注意：　点検時には、本製品を流水により作動させ、作動信号が出力されることを確認してください。

なお、ディスクの状態によっては、信号確認レバーを押し下げても信号が出力されない場合があります。その際は、「作動信号の停止方法」にある下図14に示すように信号停止レバーを操作してから、信号確認レバーを押し下げてください。

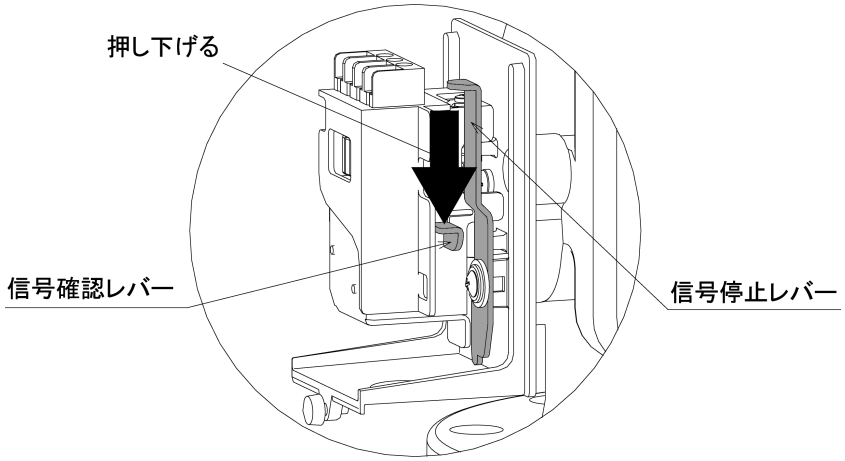


図13

7．5　作動信号の停止方法

設置後の水張り時やメンテナンス時等において、作動信号を受信機等に出力したくない場合、または本製品が作動中であり、本製品からの作動信号の出力を停止させたい場合、信号停止レバーを操作します。

流水検知部のカバーを外した後、信号停止レバーを90度手前に倒してから、ストッパーに当たり止まるまで奥へ押し込みます。その時、信号停止レバーは約10mm奥へスライドし、スリットが隠れます。

定位の状態に戻すには、信号停止レバーを手前に引いてから90度上方へ起こします。

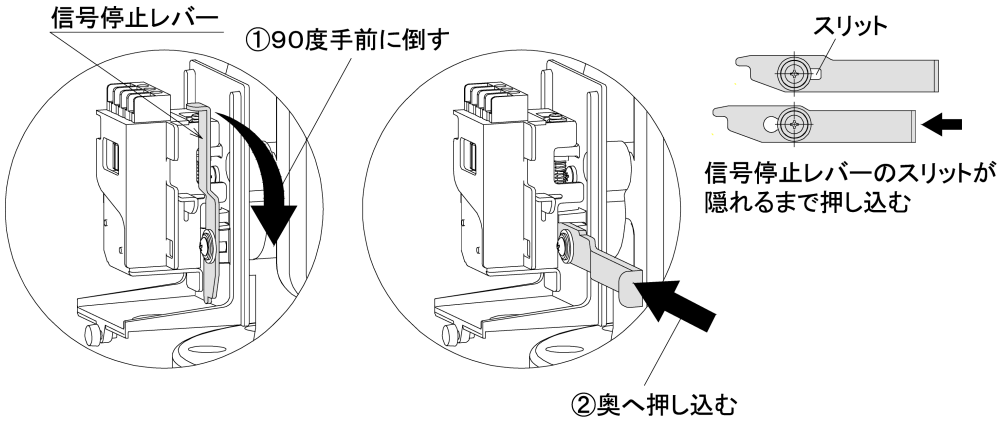
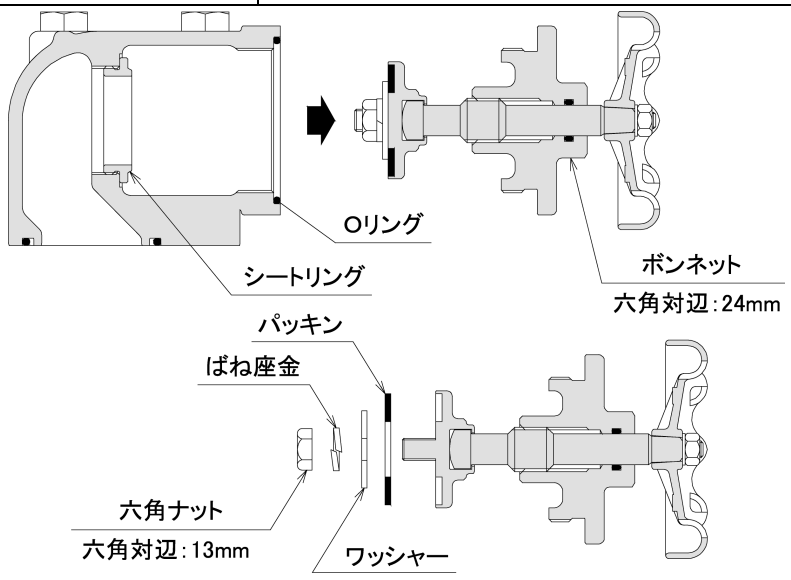


図14

8. 異常時の処置方法

不要な警報を出さないための措置をしてから、部品交換等を行ってください。

症　　状	主 な 原 因	処 置 方 法
1. 配管内の圧力が低下する。	1-1 接続部からの漏洩。	1-1-1 漏洩箇所を修理する。
	1-2 排水弁からの漏洩。	1-2-1 排水弁のシート部に傷等がある場合には下記の要領にて交換する。 ①制御弁を閉じる。 ②流水検知部のカバーを取外して、信号停止レバーを操作する。(90度手前に倒してから、奥へ押し込む。11ページ図14参照) ③排水弁を開け、配管内の水抜きを行う。 ④排水弁のボンネットを緩めてパッキン(ゴムシート)を取外し、交換する。(下図15参照) ⑤排水弁ボディのシートリングに傷がある場合は排水弁を交換する。 ⑥元通り組付け、排水弁を閉じる。 ⑦制御弁を微開後、徐々に開けて配管内に注水する。注水後、制御弁を全開にする。 ⑧信号停止レバーを定位状態に戻し、流水検知部のカバーを確実に取付ける。
	 **図15**	
2. 作動信号が出ない。	2-1 配線・結線の不具合。	2-1-1 接続端子への配線等を確認する。(テスターを用いて導通を確認する。)
	2-2 信号停止レバーを使用したままになっている。	2-2-1 信号停止レバーを定位状態にする。
	2-3 末端試験弁を開けている時間が短い。	2-3-1 遅延時間より長い時間、末端試験弁を開け続ける。
	2-4 二次側配管内の空気溜まり。(バルブ本体が開閉を繰返す場合)	2-4-1 末端試験弁を開けるなどの適切な方法で空気を抜く。

症　　状	主 な 原 因	処 置 方 法
3. 作動信号が止まらない。	3-1　バルブ本体内部の異物の挟み込み。	3-1-1　下記作業フローをご参照ください。

流水検知部のカバーを開けて、作動信号を停止する操作を行う。
信号停止レバーを90度手前に倒してから、奥へ押し込む。（11ページ図14参照）

信号停止レバーを押し込めない場合、ステムポート内部への異物が予想され、異物により、ステムの先端が押し上げられている。（14ページの図16参照）

信号停止レバーを押し込める場合、ディスクとシートリングとの間への異物が予想されるので、排水弁を開けて、フラッシングする。（14ページの図16参照）
フラッシング後は、排水弁を全閉にする。

信号停止レバーを定位状態に戻す。

作動信号が止まらない場合、再度、信号停止レバーを操作する。（使用状態にする）

作動信号が止まる。

流水検知部のカバーを確実に取付ける。

内部の異物を取除く作業の準備をする。

制御弁を閉じる。

排水弁を開け、配管内の水抜きを行う。

バルブ本体のカバーを取外す。

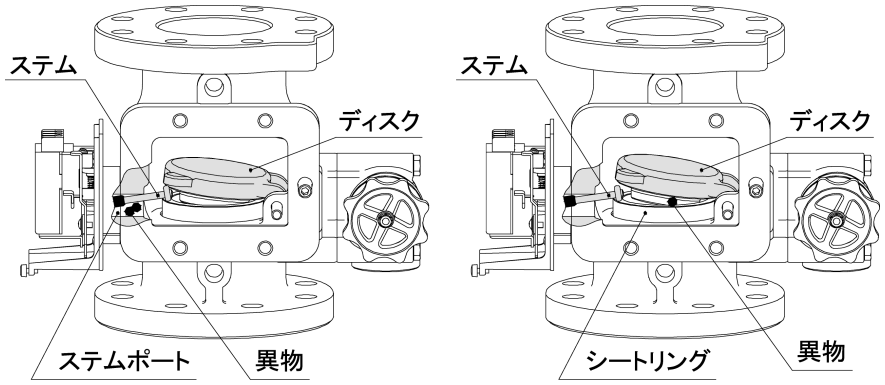
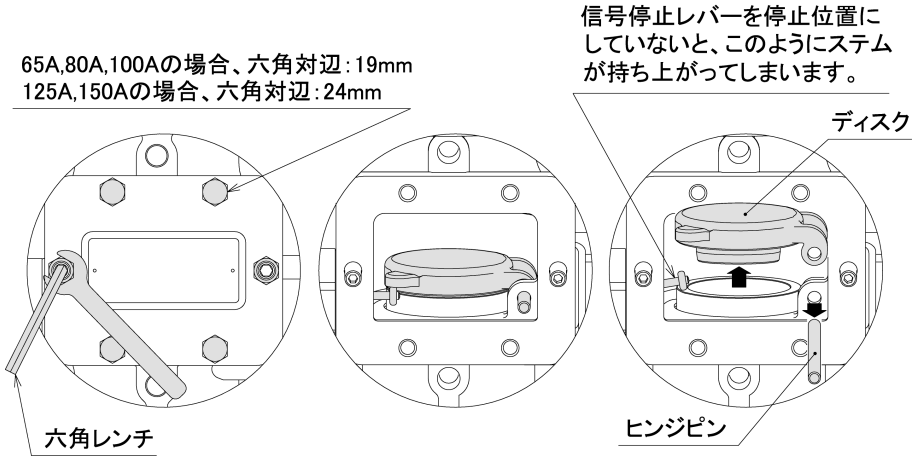
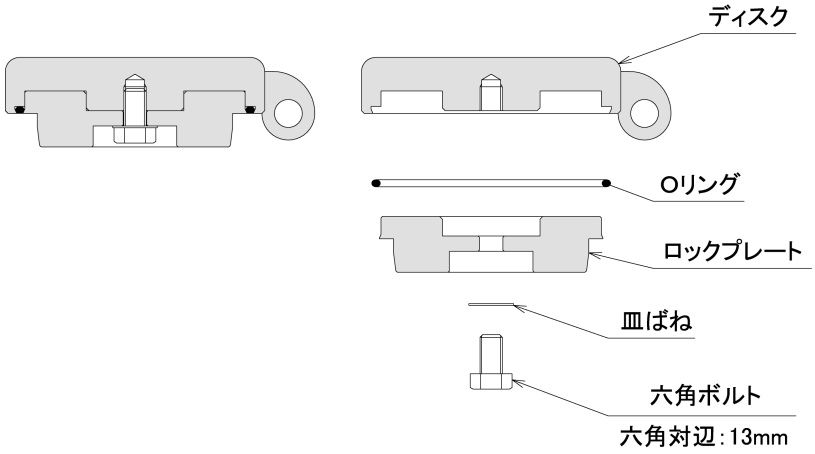
ヒンジピンを引き抜き、ディスクを持ち上げて取り出す。（14ページの図17参照）
⚠注意：ディスクは重いので、取り出す際、シートリング表面に傷をつけないよう注意してください。弁座の止水性能に影響を及ぼします。
⚠注意：ステムの先端にディスクを強く当てないように注意してください。また、ディスク交換時に信号停止レバーを停止位置にしていないと、ステムが持ち上がります。（作動信号が出る状態）

内部確認、清掃、異物の除去。
ステムポート内に異物がある場合は、ピンセット等を使用して取除いてください。
ディスクのOリングは弁座の止水性能に影響を及ぼします。傷等がある場合は交換してください。（14ページの図18参照）

元通り組付ける。
⚠注意：ディスクを組付ける際、シートリング表面に傷をつけないよう注意してください。
⚠注意：ディスクをバルブ本体に組付ける際、ディスクの下側にステム先端が位置するようにしてください。また、ステムの先端にディスクを強く当てないように注意してください。

制御弁を微開後、徐々に開けて配管内に注水する。注水後、制御弁を全開にする。

信号停止レバーを定位状態にし、流水検知部のカバーを確実に取付ける。

症　　状	主 な 原 因	処 置 方 法
3. 作動信号が止まらない。 （続き）	 **図16** ステムポート内部へ異物が入り込み、ステム先端が平常時位置に戻らない。または、ディスクとシートリングとの間に異物が挟まり、ディスクが戻らない。	
	 **図17** 信号停止レバーを停止位置にしてから、バルブ本体のカバーを取外し、ヒンジピンを引き抜き、ディスクを持ち上げて取出す。 なお、カバーの六角ナットを取外す際、六角穴付止めネジも緩むような場合は、附属の六角レンチを使用し、六角穴付止めネジを押さえながら取外してください。 また、カバーを取外した際は、カバーガスケットは新しいものに交換することをお勧めします。	
	 **図18**	

◎故障と思われる場合は、点検会社へ連絡してください。

◎当社による現地修理については、実費にて承ります。

9. 基本仕様

製品記号	XV65	XV80	XV100	XV125	XV150
呼び径	65A	80A	100A	125A	150A
型式番号	流第22～2号	流第22～3号	流第22～4号	流第22～5号	流第22～6号
最大流量(L/min)	900	1,350	2,100	3,300	4,800
圧力損失値 (直管相当長さ)	0. 021MPa (6. 9m)	0. 014MPa (5. 0m)	0. 025MPa (14. 5m)	0. 029MPa (21. 0m)	0. 039MPa (32. 4m)
分類	作動弁型				
呼び	10K				
取付方向	縦				
使用圧力範囲	0. 15 ～ 1. 4 MPa				
耐圧試験圧力	2. 0 MPa				
使用環境温度範囲	0 ～ 40℃ (水の凍結なきこと)				
検知流量定数	50･60併用型				
不作動水量	20 L／min				
遅延時間	約 10 秒 (7～16秒) 製品記号の後に「－30S」が付く製品は、約30秒(20～40秒)				
復帰時間	約 1 秒				
質量	約27kg	約28kg	約32kg	約47kg	約54kg
接点容量	下表参照				

作動信号用スイッチの接点容量

	抵抗負荷
定格負荷	AC250V ／ 4A
	DC30V ／ 4A
最小適用負荷	(例) DC24V ／ 40mA

記　事　欄

千住スプリンクラー株式会社

本　　社　〒120-0038　東京都足立区千住橋戸町 23 番地
電　話　(03) 3870－5011
ＦＡＸ　(03) 3881－3199

大阪営業所　〒532-0003　大阪府大阪市淀川区宮原 3－5－24
新大阪第一生命ビル 3F
電　話　(06) 6391－6822
ＦＡＸ　(06) 6391－8805

福岡営業所　〒816-0912　福岡県大野城市御笠川 5－3－13
電　話　(092) 513－0823
ＦＡＸ　(092) 504－1025